定　　款

第１章　　総　　則

（名　称）

第１条　この法人は、特定非営利活動法人おお樹にという。

（事務所）

第２条　この法人は、主たる事務所を大阪府豊中市に置く。

第２章　　目的及び事業

（目　的）

第３条　この法人は、高齢者、障がい者及び子ども等の社会的弱者並びに彼らが利用する介護事業所に対して、看取り事業、旅行のサポート事業、保育所の運営及び介護事業所への外国人雇入れサポート事業等を行い、地域と社会福祉の増進を図り、広く公益に貢献することを目的とする。

（特定非営利活動の種類）

第４条　この法人は、その目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

（１）保健、医療又は福祉の増進を図る活動

（２）子どもの健全育成を図る活動

（３）前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

（事　業）

第５条　この法人は、その目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

（１）　看取り事業

（２）　旅行のサポート事業
（３）　保育所の運営
（４）　介護事業所に対する外国人の雇入れサポート事業
（５）　福祉有償運送事業
（６）　子ども食堂の運営事業
（７）　前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

第３章　　会　　員

（種　別）

第６条　この法人の会員は、次の１種とし、特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

正会員　　この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体

（入　会）

第７条　会員の入会については、特に条件を定めない。

２　会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

３　理事長は、前項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

（入会金及び会費）

第８条　会員は、総会において別に定めたときは、入会金及び会費を納入しなければならない。

（会員の資格の喪失）

第９条　会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

（１）　退会届の提出をしたとき。
（２）　本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
（３）　継続して１年以上会費を滞納したとき。

（４）　除名されたとき。

（退　会）

第10条　会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

（除　名）

第11条　会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

（１）　この定款等に違反したとき。

（２）　この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

第４章　役員及び職員

（種別及び定数）

第12条　この法人に次の役員を置く。

（１）　理事　３人以上

（２）　監事　１人以上

２　理事のうち、１人を理事長とする。

（選任等）

第13条　理事及び監事は、総会において選任する。

２　理事長は、理事の互選とする。

３　役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族が１人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が役員の総数の３分の１を超えて含まれることになってはならない。

４　監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

（職　務）

第14条　理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2　理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。

3　理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

4　監事は、次に掲げる職務を行う。

（1）　理事の業務執行の状況を監査すること。

（2）　この法人の財産の状況を監査すること。

（3）　前２号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

（4）　前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。

（5）　理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

（任期等）

第15条　役員の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。

2　前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。

3　補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

4　役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

（欠員補充）

第16条　理事又は監事のうち、その定数の３分の１を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

（解　任）

第17条　役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

（1）　職務の遂行に堪えない状況にあると認められるとき。

（２）　職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

（報酬等）

第18条　役員は、その総数の３分の１以下の範囲内で報酬を受けることができる。

２　役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

３　前２項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

（職　員）

第19条　この法人に、事務局長その他の職員を置く。

２　職員は、理事長が任免する。

第５章　総　会

（種　別）

第20条　この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の２種とする。

（構　成）

第21条　総会は、正会員をもって構成する。

（権　能）

第22条　総会は、以下の事項について議決する。

（１）　定款の変更

（２）　解散

（３）　合併

（４）　事業計画及び活動予算並びにその変更

（５）　事業報告及び活動決算

（６）　役員の選任又は解任、職務及び報酬

（７）　入会金及び会費の額

（８）　借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第４６条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利

の放棄

（９）　事務局の組織及び運営

（10）　その他運営に関する重要事項

（開　催）

第23条　通常総会は、毎事業年度１回開催する。

２　臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

（１）　理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。

（２）　正会員総数の５分の１以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

（３）　第１４条第４項第４号の規定により、監事から招集があったとき。

（招　集）

第24条　総会は、第２３条第２項第３号の場合を除き、理事長が招集する。

２　理事長は、第２３条第２項第１号及び第２号の規定による請求があったときは、その日から１４日以内に臨時総会を招集しなければならない。

３　総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも会日の５日前までに通知しなければならない。

（議　長）

第25条　総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

（定足数）

第26条　総会は、正会員総数の２分の１以上の出席がなければ開会することができない。

（議　決）

第27条　総会における議決事項は、第２４条第３項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

２　総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3　理事又は社員が総会の目的である事項について提案した場合において、社員の全員が書面により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。

（表決権等）

第28条　各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2　やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3　前項の規定により表決した正会員は、第２６条、第２７条第２項、第２９条第１項第２号及び第４７条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4　総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

（議事録）

第29条　総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

（１）　日時及び場所

（２）　正会員総数及び出席者数（書面表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）

（３）　審議事項

（４）　議事の経過の概要及び議決の結果

（５）　議事録署名人の選任に関する事項

2　議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人１人以上が記名押印しなければならない。

3　前２項の規定にかかわらず、正会員全員が書面により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

（１）　総会の決議があったものとみなされた事項の内容

（２）　前号の事項の提案をした者の氏名又は名称

（３）　総会の決議があったものとみなされた日
（４）　議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

第６章　　理事会

（構　成）

第30条　理事会は、理事をもって構成する。

（権　能）

第31条　理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。
（１）　総会に付議すべき事項
（２）　総会の議決した事項の執行に関する事項
（３）　その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

（開　催）

第32条　理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。
（１）　理事長が必要と認めたとき。
（２）　理事総数の３分の２以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
（３）　第１４条第４項第５号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

（招　集）

第33条　理事会は、理事長が招集する。
２　理事長は、第３２条第２号及び第３号の規定による請求があったときは、その日から１４日以内に理事会を招集しなければならない。
３　理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも会日の５日前までに通知しなければならない。

（議　長）

第34条　理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

（議　決）

第35条　理事会における議決事項は、第３３条第３項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

２　理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（表決権等）

第36条　各理事の表決権は、平等なるものとする。

２　やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。

３　前項の規定により表決した理事は、第３５条第２項及び第３７条第１項第２号の適用については、理事会に出席したものとみなす。

４　理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

（議事録）

第37条　理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

（１）　日時及び場所

（２）　理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあっては、その旨を付記すること。）

（３）　審議事項

（４）　議事の経過の概要及び議決の結果

（５）　議事録署名人の選任に関する事項

２　議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人１人以上が記名押印しなければならない。

第７章　　資産及び会計

（資産の構成）

第38条　この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

（１）　設立の時の財産目録に記載された資産

（２）　入会金及び会費

（３）　寄附金品

（４）　財産から生じる収益

（５）　事業に伴う収益

（６）　その他の収益

（資産の管理）

第39条　この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

（会計の原則）

第40条　この法人の会計は、法第２７条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

（事業計画及び予算）

第41条　この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

（暫定予算）

第42条　前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

２　前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

（予算の追加及び更正）

第43条　予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

（事業報告及び決算）

第44条　この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2　決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

（事業年度）

第45条　この法人の事業年度は、毎年６月１日に始まり５月３１日に終わる。

（臨機の措置）

第46条　予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第８章　　定款の変更、解散及び合併

（定款の変更）

第47条　この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の４分の３以上の多数による議決を経、かつ、法第２５条第３項に規定する事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

（解　散）

第48条　この法人は、次に掲げる事由により解散する。

（１）　総会の決議

（２）　目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能

（３）　正会員の欠亡

（４）　合併

（５）　破産手続き開始の決定

（６）　所轄庁による設立の認証の取消し

2　前項第１号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の４分の３以上の承諾を得なければならない。

3　第１項第２号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

（残余財産の帰属）

第49条　この法人が解散（合併又は破産手続き開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第１１条第３項に掲げる者のうち、総会で議決した者に譲渡するものとする。

（合　併）

第50条　この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の４分の３以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第９章　　公告の方法

（公告の方法）

第51条　この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第２８条の２第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人の主たる事務所の掲示場に掲示して行う。

第10章　　雑　　則

（細　則）

第52条　この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附　　則

1　この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2　この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理事長	渡邊　典子
理事	木山　慎治
理事	杉田　晃一
理事	笹　裕子
理事	天野　章子
理事	川本　泰司
監事	小塩　直子

3　この法人の設立当初の役員の任期は、第１５条第１項の規定にかかわらず、成立の日から令和５年５月３１日までとする。

4　この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第４１条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。

5　この法人の設立当初の事業年度は、第４５条の規定にかかわらず、成立の日から令和５年５月３１日までとする。

6　この法人の設立当初の入会金及び年会費は、設定しない。

令和８年度事業計画書

（令和８年６月１日～令和９年５月31日）

特定非営利活動法人おお樹に

Ⅰ　事業の実施方針

当法人は、保育所の運営事業を中心として、他市町村からの転入児や海外から来日した親の子の保育、障がい児の受入れ、児童相談所等と連携した一時保護児への対応に引き続き取り組む。

また、福祉有償運送事業及び子ども食堂の運営事業を実施し、移動困難者の外出支援と地域の子どもの居場所づくりに取り組む。

Ⅱ　事業の実施に関する事項

１　特定非営利活動に係る事業

(1)　看取り事業

【内　　容】　当該年度は実施予定なし。

(2)　旅行のサポート事業

【内　　容】　当該年度は実施予定なし。

(3)　保育所の運営

【内　　容】　一時保育事業を実施する。他市町村からの転入児や海外からの留学・仕事で来日した親の子の保育、障がい児の受入れ及び保育を行うほか、一時保護児への対応など児童相談所等の行政と連携をとりながら受入れ及び保育を行う。

【実施場所】　大阪府豊中市東豊中町4-16-30（おおきなき保育園）

【実施日時】　通年

【事業の対象者】　保育を必要とする乳幼児及びその保護者（一般利用者）

【収　　益】　5,200千円（内訳：一時保育利用料　月平均約433千円×12か月）

【費　　用】　4,693千円（内訳：人件費1,657千円、地代家賃2,508千円、食材費220千円、水道光熱費145千円、保険料88千円、減価償却費42千円、消耗品費23千円、修繕費10千円）

(4)　介護事業所に対する外国人の雇入れサポート事業

【内　　容】　当該年度は実施予定なし。

(5)　福祉有償運送事業

【内　　容】　単独では公共交通機関の利用が困難な要介護者、障がい者等に対し、道路運送法の登録を受けた自家用有償旅客運送（福祉有償運送）を行う。

【実施場所】　豊中市内ほか

【実施日時】　通年（随時）

【事業の対象者】　要介護者、障がい者等の移動困難者（不特定多数）

【収　　益】　360千円（内訳：運賃収入　月平均30千円×12か月）

【費　　用】　75千円（内訳：車両関係費（燃料費）73千円、消耗品費2千円）

(6)　子ども食堂の運営事業

【内　　容】　地域の子ども及びその保護者に対し、食事の提供及び居場所づくりを行う子ども食堂を運営する。

【実施場所】　おおきなき保育園（大阪府豊中市東豊中町4-16-30）

【実施日時】　毎月1回（最終土曜日）

【事業の対象者】　地域の子ども及びその保護者（不特定多数）

【収　　益】　40千円（内訳：参加費（大人300円・子ども100円）　1回平均約3.4千円×12回）

【費　　用】　115千円（内訳：食材費110千円、消耗品費5千円）

(7)　前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

【内　　容】　当該年度は実施予定なし。

令和９年度事業計画書

（令和９年６月１日～令和10年５月31日）

特定非営利活動法人おお樹に

Ⅰ　事業の実施方針

当法人は、保育所の運営事業を中心として、転入児や海外から来日した親の子の保育、障がい児の受入れ、児童相談所等と連携した一時保護児への対応に引き続き取り組むとともに、福祉有償運送事業及び子ども食堂の運営事業を通年で実施し、移動困難者の外出支援と地域の子どもの居場所づくりを進める。

Ⅱ　事業の実施に関する事項

１　特定非営利活動に係る事業

(1)　看取り事業

【内　　容】　当該年度は実施予定なし。

(2)　旅行のサポート事業

【内　　容】　当該年度は実施予定なし。

(3)　保育所の運営

【内　　容】　一時保育事業を実施する。他市町村からの転入児や海外からの留学・仕事で来日した親の子の保育、障がい児の受入れ及び保育を行うほか、一時保護児への対応など児童相談所等の行政と連携をとりながら受入れ及び保育を行う。

【実施場所】　大阪府豊中市東豊中町4-16-30（おおきなき保育園）

【実施日時】　通年

【事業の対象者】　保育を必要とする乳幼児及びその保護者（一般利用者）

【収　　益】　5,200千円（内訳：一時保育利用料　月平均約433千円×12か月）

【費　　用】　4,693千円（内訳：人件費1,657千円、地代家賃2,508千円、食材費220千円、水道光熱費145千円、保険料88千円、減価償却費42千円、消耗品費23千円、修繕費10千円）

(4)　介護事業所に対する外国人の雇入れサポート事業

【内　　容】　当該年度は実施予定なし。

(5)　福祉有償運送事業

【内　　容】　単独では公共交通機関の利用が困難な要介護者、障がい者等に対し、道路運送法の登録を受けた自家用有償旅客運送（福祉有償運送）を行う。

【実施場所】　豊中市内ほか

【実施日時】　通年（随時）

【事業の対象者】　要介護者、障がい者等の移動困難者（不特定多数）

【収　　益】　360 千円（内訳：運賃収入　月平均 30 千円×12 か月）

【費　　用】　75 千円（内訳：車両関係費（燃料費）73 千円、消耗品費 2 千円）

(6)　子ども食堂の運営事業

【内　　容】　地域の子ども及びその保護者に対し、食事の提供及び居場所づくりを行う子ども食堂を運営する。

【実施場所】　おおきなき保育園（大阪府豊中市東豊中町 4-16-30）

【実施日時】　毎月 1 回（最終土曜日）

【事業の対象者】　地域の子ども及びその保護者（不特定多数）

【収　　益】　40 千円（内訳：参加費（大人 300 円・子ども 100 円）　1 回平均約 3.4 千円×12 回）

【費　　用】　115 千円（内訳：食材費 110 千円、消耗品費 5 千円）

(7)　前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

【内　　容】　当該年度は実施予定なし。

令和8年度　活動予算書

令和8年6月1日から令和9年5月31日まで

特定非営利活動法人おお樹に

（単位：円）

科目		金額		
Ⅰ 経常収益				
1． 受取会費				
正会員受取会費				
賛助会員受取会費				
			0	
2． 受取寄附金				
受取寄附金				
施設等受入評価益				
			0	
3． 受取助成金等				
受取民間助成金				
			0	
4． 事業収益				
保育所運営事業収益		5,200,000		
福祉有償運送事業収益		360,000		
子ども食堂事業収益		40,000	5,600,000	
5． その他収益				
受取利息				
雑収益				
			0	
経常収益計(A)				5,600,000
Ⅱ 経常費用				
1． 事業費				
（1）	人件費			
	給料手当	1,600,000		
	法定福利費	12,000		
	退職給付費用			
	福利厚生費	45,000		
	人件費計	1,657,000		
（2）	その他経費			
	食材費	330,000		
	車両関係費	73,000		
	修繕費	10,000		
	消耗品費	30,000		
	水道光熱費	145,000		
	保険料	88,000		
	地代家賃	2,508,000		
	減価償却費	42,000		
	その他経費計	3,226,000		
事業費計			4,883,000	
2． 管理費				
（1）	人件費			
	役員報酬	0		
	給料手当			
	法定福利費			
	退職給付費用			
	福利厚生費			
	人件費計	0		
（2）	その他経費			
	業務委託費	380,000		
	通信運搬費	150,000		
	支払手数料	75,000		
	租税公課	1,000		
	その他経費計	606,000		
管理費計			606,000	
経常費用計(B)				5,489,000
当期経常増減額(C)=(A)−(B)				111,000
Ⅲ 経常外収益				
1． 固定資産売却益				
経常外収益計(D)				0
Ⅳ 経常外費用				
1． 過年度損益修正損				
経常外費用計(E)				0
当期正味財産増減額(F)=(C)+(D)−(E)				111,000
前期繰越正味財産額(G)				△1,955,907
次期繰越正味財産額(F)+(G)				△1,844,907

令和9年度　活動予算書

令和9年6月1日から令和10年5月31日まで

特定非営利活動法人おお樹に

（単位：円）

科目		金額		
Ⅰ 経常収益				
1． 受取会費				
正会員受取会費				
賛助会員受取会費				
			0	
2． 受取寄附金				
受取寄附金				
施設等受入評価益				
			0	
3． 受取助成金等				
受取民間助成金				
			0	
4． 事業収益				
保育所運営事業収益		5,200,000		
福祉有償運送事業収益		360,000		
子ども食堂事業収益		40,000	5,600,000	
5． その他収益				
受取利息				
雑収益				
			0	
経常収益計(A)				5,600,000
Ⅱ 経常費用				
1． 事業費				
（1）	人件費			
	給料手当	1,600,000		
	法定福利費	12,000		
	退職給付費用			
	福利厚生費	45,000		
	人件費計	1,657,000		
（2）	その他経費			
	食材費	330,000		
	車両関係費	73,000		
	修繕費	10,000		
	消耗品費	30,000		
	水道光熱費	145,000		
	保険料	88,000		
	地代家賃	2,508,000		
	減価償却費	42,000		
	その他経費計	3,226,000		
事業費計			4,883,000	
2． 管理費				
（1）	人件費			
	役員報酬	0		
	給料手当			
	法定福利費			
	退職給付費用			
	福利厚生費			
	人件費計	0		
（2）	その他経費			
	業務委託費	380,000		
	通信運搬費	150,000		
	支払手数料	75,000		
	租税公課	1,000		
	その他経費計	606,000		
管理費計			606,000	
経常費用計(B)				5,489,000
当期経常増減額(C)=(A)−(B)				111,000
Ⅲ 経常外収益				
1． 固定資産売却益				
経常外収益計(D)				0
Ⅳ 経常外費用				
1． 過年度損益修正損				
経常外費用計(E)				0
当期正味財産増減額(F)=(C)+(D)−(E)				111,000
前期繰越正味財産額(G)				△1,844,907
次期繰越正味財産額(F)+(G)				△1,733,907